

いろいろ通信

第3号(2018年3月31日)

—未来を生きる村づくり—特定非営利活動法人いろいろ
contact@npo-irori.org http://www.npo-irori.org/

編集責任：共同理事長 浦野 喬・近藤智和

通算 11 回目となる 茅刈り in 南会津水引 開催

2017年11月3日から5日にかけて、福島県南会津町（旧館岩村）の水引集落で、通算11回目となる茅刈りツアーを開催しました。茅葺き民家の屋根に使われる茅（ススキ）を刈り取る秋の恒例行事です。今回も常連さんから初参加の方まで、およそ20名の参加のもと、集落の方や茅葺き職人に指導をおおきながら作業しました。

茅刈り当日はあいにくの天気です。予定を短縮して行ったにもかかわらず、ちょうど5束を刈り取ることができました。前回（2016年）は5束半だったので、時間の制約があったことを考えれば、生産性はよかったように思います。

初参加の方も地区の方のご指導を受け、サクサクと刈り取っていました。

「地域」をテーマに情報交換会

今回の茅刈りツアーは3連休だったこともあり、初日に「いろいろ端会議」と題する情報交換会を行いました。（会場＝館岩会館、協力＝南会津町館岩総合支所）

「会議」ではまず、NPO法人いろいろ共同理事長の浦野喬が法人の活動目的を説明。その後、南会津町湯ノ花集落で地域活性化に取り組む宇都宮大学「湯ノ花咲かせ隊」、公益財団法人日本ナショナルトラスト事業課長の梅宮路子さん、只見町で地域おこしを行う宇都宮大学「D-friends」、秋田県の



茅葺き職人の本間恵介さん、檜枝岐（ひのえまた）村で茅葺きの出作り小屋を所有している彫刻家の吉野ヨシ子さんにそれぞれご登壇いただき、活動内容の詳細や、活動を通じて日々感じていることなどを語っていただきました。休憩を挟み、後半では参加者全員でグループディスカッション。「地域の伝統を継承するにはどうしたらいいのか？」

「空き家や休耕地を有効活用する方法は？」などというテーマで意見交換を行いました。

参加者からは「ものすごく有意義な話をたくさん聞けた。今後も継続してほしい」という感想もいただくことができました。ご登壇、ご参加いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。折をみて「第二弾」も開催したいと思います。

そば、赤かぶ、ばんでい餅…

郷土料理を囲んで地酒で乾杯！

11月4日の夜、水引公民館にて懇親会を開催しました。地区の方々にはこれまで、郷土料理を昼食としてご提供いただいていたのですが、多くの参加者から「夜、酒を酌み交わしながら話を聞いてみたい」と希望する声があり、今回、初の試みとして実現しました。

当日は茅刈りツアー参加者も郷土料理づくりを体験。水引の畑で収穫された野菜の煮物の下ごしらえや、山の神へのお供えものとして発祥した郷土料理の「ばんでい餅」づくりなどを行い、名産のそばや赤かぶ漬けとともに、続々と配膳されていきました。

懇親会の始まりはもちろん「地酒で乾杯！」。町内に4つの蔵元をもつ南会津町では「乾杯条例」が定められているのです。この日はNPOスタッフが準備した地酒に加え、地元の方に差し入れていただいた「國権」（國権酒造）を、料理とともにおいしくいただきました。

なお、水引集落では今回の懇親会のために、1升炊きの炊飯器を新規導入したのだとか！ 本当ありがとうございます。これは次回も使わせていただかなくてはなりませんね！



～2018年度イベントご案内～

6/10(日) 田代山山開き

10/27(土)・28(日) 茅刈りツアー(予定)

6月10日、水引集落の南にある田代山（尾瀬国立公園）が山開きをします。登山道はおよそ2km。ゆっくり登って行きは2時間半、下りは1時間半ほどです。山頂（1,926m）は面積25haの湿原でとても開放的！ この時期はチングルマやオサバグサなどの花も期待できるそうですよ。当NPOでは前日に水引集落の民宿「離騒館」に宿泊し、当日午前中に登山をする予定で、前日には集落内の山桜植樹地にて草取りボランティアも行います。

恒例の水引集落茅刈りツアーは、10月27日・28日の開催を予定しています。各イベントの詳細は、随時facebookなどで告知してまいります。

茅刈りQ & A [第2回]

「差し茅」って何？

数十年ごとに屋根をすべて葺き替える「丸葺き」に対し、傷んだ茅を小まめに葺き替えるのが「差し茅」です。茅の必要量が少なく、工期も短い点がメリットで、水引集落では1棟あたり3㍻～3㍻半の茅を約6日で葺き替えます。差し茅は東北地方の日本海側の習慣です。この地域でのみ見られる理由として、雪が凍って茅が抜けるため小まめな補修が必要であること、断熱用に壁に茅を立てる「雪囲い」用に毎年茅を刈る習慣があることが挙げられています。(参考：『住まいの伝統技術』安藤邦広・乾尚彦・山下浩一著、建築資料研究社)



2017年の差し茅の様子。水引では毎年2軒で行います